

事業主推薦制度活用事例

事業主推薦制度を活用

入社当時の漠然とした不安が、2年間の教育訓練によって解消されました。

地元の工業高校を卒業し、弊社へ入社。半年間の研修を経て、放電加工の部署に仮配属となりました。日々の業務を通してOJTが行われますが、先輩から教えてもらう専門用語や加工内容の意味を理解することが難しく、意思疎通がうまく取れない状況でした。都度、勉強はするものの、不安な日々を過ごしていました。

入社2年目からは2年間東北能開大の生産技術科で学べる機会をいただきました。東北能開大では、機械製図や機械加工などを改めて基礎から学ぶことができました。仕事では漠然としていたNCプログラムの作成方法やそれに基づいた加工を習得でき、職場へ戻った時には最初にあった不安がほとんど解消されました。現在では、2年間で得た知識や技能・技術を業務に活かしています。

実習だけ出来ても仕事はできない

ものづくりが好きだとやはり加工関連の実習を積極的に取り組みますが、実際に加工を行っている時、それに付随する知識も同じくらい重要であることを痛感します。図面と素材を見て、加工工程を考えたことや、刃物の材質や形状、といしの種類などから加工条件を考えることなど、実際に加工するには様々な知識が必要となります。機械加工に関連する座学や材料力学などもしっかり習得しておく現場に戻ってから大いに役立つと思いました。私のような境遇の方は、ぜひこのような大学校で学んでみてください!!

就職先企業での活躍

修了生Sさんの業務

平面研削盤を活用した粗研削工程を担当。寸法公差だけでなく、幾何公差、表面粗さなど求められる要求も多いため、次工程（仕上げ研削）を考えた段取りなど重要な作業を担当。

平面研削盤を操作するSさん▶



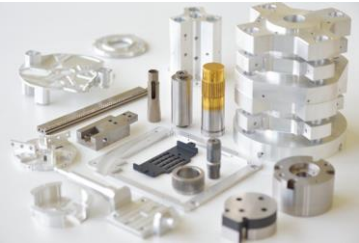
プラスエンジニアリング株式会社

(本社：東京都豊島区東池袋 仙台事業所：宮城県柴田郡村田町)

プラスエンジニアリング株式会社は、各種工作機械を駆使し、幅広い企業から要望をいただき、各製品の要求を満たす精密部品の製造を行っています。

製造する精密部品は多様ですが、共通する特徴があります。それは製造する多くの精密部品が各企業の「生産財」となる部品であることです。

自社で生産した部品が各企業の生産に大きく携わり、広くものづくり企業を支えています。



現在、東北職業能力開発大学校の修了生 5名 が活躍

プラスエンジニアリング株式会社 製造部

S. Sさん

東北職業能力開発大学校

専門課程

生産技術科

(令和5年度 修了)



企業の人材育成担当者の声 業務部主任 S. S様

近年では、新卒者が入社後数年で壁にぶつかり、離職してしまう事も少なくない状況が続いていました。原因を調べていると、「夜勤」と「業務が覚えられない」との2つが大部分を占めていました。業務がなぜ覚えられないかをさらに探ると、教える側の姿勢と、教えられる側の意識の2つの要素がありました。

これらの対策として、DXを活用して交代勤務のムダを分析し夜勤廃止を敢行。また外部研修を行い、教える側への教え方研修を実施しました。残る教えられる側の意識改善手段として実施しているのが、就業支援制度です。

当初は、加工以外の机上の勉強に効果があるのかなど、心配もありましたが“技術者として自立”したとの実感が本人にも周囲の目にもあります。仮に社内に居続けて、これほどの成長が期待できなかったと思います。やはり、“製造する”ノウハウとそれを教えて“できるようにする”ノウハウは違うと痛感しました。

修了した社員を通じて、東北能開大の高い専門性を実感しております。また、当社は人材開発支援助成金による助成を受けることができたため、社員教育と人材確保という観点で見れば、費用面としても負担はそこまで大きくないと感じています。社内では、この効果を目にして、できるだけ多くの新入社員をこの制度が利用できるようにと考えています。

